



しもつけ文化財探訪

第2回 国家仏教の展開と下野国分寺跡

古代の寺院は、建物の柱が赤く塗られ、屋根には瓦が葺かれているなど、朝鮮半島から伝わった最新技術によって造られていました。仏教が日本に伝わった頃（1470年位前）に造られた寺院は、古墳時代の有力者の権威を示す古墳にかわって、支配者層の権威を示すために造られました。仏教が伝わってから100年くらい経つと仏教についての考え方がわかり、仏教の力によって国を守ろうという考え方が強くなってきました。こうした考え方を仏教による鎮護国家の思想といい、同時に国家が仏教を統制するようになりました。

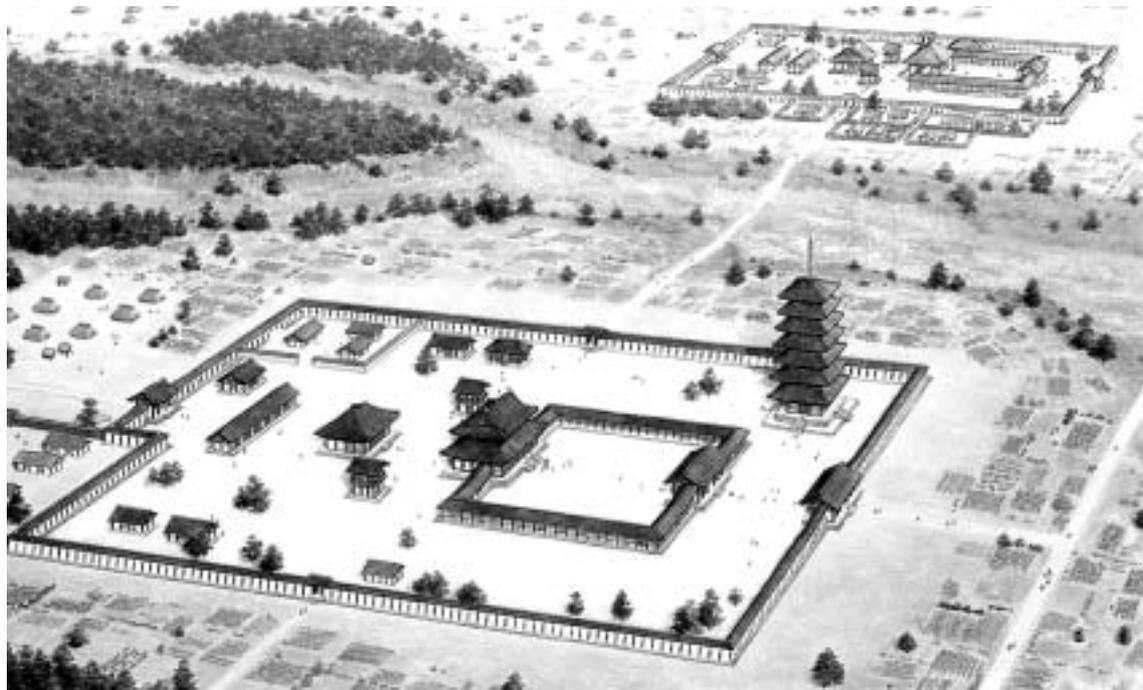
奈良時代には国際交流のはなやかさが正倉院宝物にみられ、「青丹よし奈良の都は咲く花の薫うがことく今盛りなり」と万葉集に歌われ、天平文化が花開きました。

一方では、天候不順で凶作飢饉が頻発し疫病などが全国に広まり、また藤原広嗣が反乱をおこすなど不安定な政治状況でした。

そうしたなか、天平13年（741）に聖武天皇は仏教の功德によって国家を安定させようと祈念して国分寺建立の詔を発しました。

国分寺は、各国に1箇所ずつ造られ全国に60数箇所ありました。下野国（栃木県）には、下野市国分寺に造られました。国分僧寺と尼寺を併せて国分寺（イラスト参照）といいますが、一般的に国分僧寺を国分寺とよんでいます。

下野国分寺跡は、平成11年度から史跡整備に伴う発掘調査を行っており、平成16年度までに金堂や講堂、塔跡など主要な建物の調査が終了しました。これからは、整備の工事が始まります。今年度は、平成16年度に発掘調査（写真参照）を行った塔跡の基壇整備を実施する予定です。



下野国分寺周辺の鳥瞰図（手前が国分僧寺、奥が尼寺）



塔跡礎石出土状況（南西から）

問い合わせ先
下野市教育委員会
文化課文化財係
☎52-1120

次回は「児山城跡」を探訪します。